



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2010推進ニュース

—介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

アピール「最期まで人間らしく生きるために介護保険制度をめざそう」を確認

介護保険シンポジウム実行委員会主催「介護保険10年を考えるシンポジウム」開催（茨城）

「介護保険10年を振り返るシンポジウム」が2010年12月19日にグリーンパレス石岡で開催され、81名が参加しました。介護保険制度は、高齢者を社会全体で支える制度をめざして2000年に導入され、この10年で制度自体は定着しましたが、さまざまな問題を抱えています。安心して受けられる介護とは何か、現在どのような問題点があるのかについて意見交換が行なわれました。

介護者家族「子育ては成長のよろこびを感じることができるが、介護は喪失感の需要の連続である」



はじめに吉河市古河福祉の森診療所長の赤荻榮一さんが、介護保険法の目的、給付の考え方、ケアマネジャーの義務、地域支援事業などについてシンポジウムの前提となる基調講演を行いました。

シンポジウムでは家族の介護をしている大隅智子さんが、要介護認定を受ける際の戸惑いと軽度の要介護認定結果に驚いた経験を語りました。「家族に介護者を抱えると仕事を続けられなくなる方が多い。子育ては成長のよろこびを感じることができると、介護は喪失感の需要の連続である。介護に全ての時間を費やすのではなく『介護もする』という生活が保障される介護保険になると良い」などと、介護者家族から見た介護保険の問題点を語りました。

グループホームの介護職員、平井智一さんは、少ない職員配置でも良い介護の実践に日々努力していることや、介護の理念も技術もしっかり持った職員が安い賃金で生活ができず離職を余儀なくされている実態を報告しました。

ケアマネジャーの荒井富江さんは、3年毎の改定で改悪され続けて複雑でわかりにくい制度になってしまったことや、利用者の個別性に目を向けていない要介護認定制度の問題、さらに、介護報酬の基本単価が安く、事業所の基礎体力を奪っていることなど、制度上の問題点を指摘しました。

石岡市介護保険室の鯉沼康浩さんからは、自治体が行っている安否確認、緊急通報システム、徘徊高齢者家族支援サービスや助成制度、保険料軽減の取り組みと介護予防事業について説明がありました。



「急な病気で援助が欲しい時に介護保険が利用できない」などの声が寄せられる

討論では、参加者から、「急な病気で援助が欲しい時に介護保険が利用できない」、「要介護認定制度が良くわからない」、「介護が必要になった際に在宅介護支援センターの職員が機敏に対応してくれたので助かった」、「ケアマネジャーが利用者の立場でケアプランを立ててくれると助かるが、安心して任せられる人を探すことがむずかしい」、「介護保険制度が定着した今、真に社会全体で支える制度にしていくには、運営主体の自治体、利用者、介護で働く職員と施設管理者が、それぞれの立場を知り、制度の矛盾や改善点を広く知らせていくことが必要である」などの発言がありました。

最後に、実行委員会からアピール「最期まで人間らしく生きるために介護保険制度をめざそう」が提案され、今後予定されている介護保険制度の見直しに、抜本的改善を求め世論と運動をすすめていくことを確認しました。(いばらき社保協NEWS No.73 2011.1.10より)

「やりかい事例集」作成にむけて事例発表会を開催！40名が参加(神奈川)

2011年1月21日（金）冬の寒さが身にしみる中、昼間の仕事を終えた介護職員40人が県連に集り事例報告会を行いました。高齢者に残された人生を生き生きと過ごすお手伝いに「誇りとやりがい」を感じ頑張っている介護職員の皆さんが輝いていた事例発表会でした。

また、介護職員のおもいが「ありがとう」の替え歌でお披露目されました。部会役員が1月29日（土）16:30からの宣伝行動で「うまく話ができないので」と、今の心境を替え歌にしました。当日、横浜駅西口高島屋前で歌います。(介護ウェーブ推進ニュース神奈川 N038 2011年1月25日より)



安らかな看取り

社福うしおだ グループホーム菜の花の家

報告者 後藤 津多子さん

ホームか入院か葛藤のすえ、ホームでの看取りを最善と考え、家族と協力し些細な事も一緒に喜び寄り添いながら、馴染みの生活の中で安らかに看取れた。息子さんより「母はこのホームで看取ってもらい幸せでした」との言葉があり、“ああ良かったんだ”と実感できた。これからも入居者が終の棲家として、安心して生活できるホーム作りに取り組んでいく決意も報告されました。

長生きバアチャン、あっぱれ102歳

川医協 老健樹の丘

報告者 雪田 正人さん

102歳を迎える kさんの誕生会を施設全体で取り組むことで他の入所者も「俺もがんばって長生きしよう！したい！」気持ちを持った。高齢者が残された人生を生き生き過ごす、お手伝いができることに職員は励まされ、介護職に対する誇りとやりがいを感じています。

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp